

農学部環境ニュース第1号(2016年10月25日)



私たち信州大学農学部環境委員会は「Fun to Share」運動を応援しています

○「農学部環境 ISO ニュース」は、この度「農学部環境ニュース」に名称変更いたしました。

1. 環境ISO14001認証を返上しました

(平成28年9月1日学長メッセージ)

信州大学では環境マインドの育成として、平成13年の国公立大学初となる工学部におけるISO14001の認証取得を契機に、その手づくりのエコキャンパス構築は、平成22年の松本キャンパス医学部及び同附属病院の認証範囲拡大をもって全学における認証取得を達成しました。これまでの15年におよぶ活動は、環境マインドをもった多数の卒業生を輩出し、持続可能な社会づくりへ多大な貢献を果てしてきたことは紛れもない事実であります。

信州大学ではこれまで培ってきた豊かな経験をもとに独自の環境マネジメントシステムの構築が可能と判断し、今年度をもって認証を返上することを決意しました。今後は大学運営方針キーワードの一つである「Green」の「G」を旗印に、信州大学環境方針に基づき、環境マインドの育成を継続発展させ、地球にやさしい環境づくりに貢献できるよう努めてまいります。皆様のご支援ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、本学部(農学部サイト)は本年9月30日をもって環境ISO認証を返上しました。今後の学生委員会、事務局の表記については以下のとおりになります。

環境ISO学生委員会 → 環境学生委員会

ISO事務局 → EMS事務局

(EMS事務局)

○夏休み中に、学生委員が様々なプログラム、大会へ参加しましたので報告します○

2. 全学合宿に参加しました

7/16(土)・17(日)に松本青年の家で全学合宿を行いました。



分科会での発表の様子

全学合宿では普段あまり関わることのできない他キャンパスの学生委員たちと交流ができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。また、1年生とはキャンパスが離れているので、なかなか顔を合わせる事が出来ませんが、今回の合宿で今後の活動を担っていく後輩たちと交流ができ、とてもよい機会となりました。

毎年の合宿では活動報告が主ですが、今年は「環境活動」について主にグループワークを通して深く考える企画があり、学年関係なく様々な意見を出し合い、改めて普段私たちが行っている「環境活動」について深く考えることができました。

今回の全学合宿を終え、よりよい活動をこれからも行っていきたいと思いました。

今回の全学合宿を終え、よりよい活動をこれからも行っていきたいと思いました。

(環境学生委員会委員長 丹下美咲)

3. 第201回赤沢プログラムに参加しました

平成28年9月10日、11日に、赤沢自然休養林にて地球緑化センター主催の間伐ボランティア活動に参加しました。私

は森林科学科を専攻しており、国営林がどのような場所だろうかと、参加するのが楽しみでした。

私達の他にも企業団体や他県から様々な人が参加していました。参加者の大半の人が何度もこの間伐ボランティアに参加されているということでした。普段はお仕事をされていて、「このボランティアで日ごろのストレスを発散している。」と話していた方もいました。どの人も「森林の中で体を動かすことは楽しい。」と話し、日常生活では体験できないことが、このボランティアの魅力のひとつなのだと感じました。

実際作業をしてみて、講義や演習で習った技術・方法をそのまま使っていたので、こういった森林作業は統一されているということと、いままで習ってきたことを実践できる達成感がありました。私たちが伐倒したヒノキからは素晴らしい香りがして爽やかな気分で作業ができ、とてもすがすがしく感じました。これが森林の効果のひとつなのだと体感できました。

(環境学生委員会副委員長 山田実里)



作業後、松本環境学生委員の参加者と記念撮影

4. 第10回全国環境ISO学生大会2016に参加しました

平成28年9月5日、6日に千葉大学西千葉キャンパスで開催された第10回全国環境ISO学生大会に参加しました。大会のテーマは「多くのアイデアを、多くの人に、正確に」であり、より良い情報発信や活動のために何が必要かを学び、話し合いました。

1日目は、基調講演と参加団体の活動紹介、懇親会が行われました。基調講演のテーマは、「発信力を高めるには？を考えてみよう」で、自分たちが発信した情報を受け取ってもらうには、受け手に自分と関係があると思わせる必要があり、企画に「納得性」と「意外性」を持たせること、よい企画のためには自分および様々な立場の人間と情報交換をすることが重要であると分かりました。

活動紹介では、各団体が環境教育、廃棄物の削減と分別呼びかけ、地域交流、緑化などを行っていることが分かりました。ここでは、1つの活動でも多様な方法があることを知りました。例えば、環境教育では、教材の作製、レクリエーションとの組み合わせ、学校での体験イベントの開催といった活動があり、廃棄物に関することでは、ごみ箱への工夫による分別の促進、エコバッグを配布することによるレジ袋の削減などがあり、自分たちにあった方法で進めていくことで活動を継続し、改善のために方法を変更することが可能なのだと分かりました。

2日目のプログラムは、キャンパスツアー、2回目の基調講演、分科会でした。キャンパスツアーは、千葉大学西千葉キャンパス学生委員会の活動や施設見学に参加しました。落ち葉堆肥や風の整流により建物を冷却するルーバーの設置など、廃棄物や使用エネルギーの削減を第一に考えた活動が多いと感じました。特に、千葉大学独自規格のごみ分別品目であるMIX古紙の設定は、工夫により可燃ごみの減量とリサイクル率の向上を行うことのできる優れた取り組みであると感じました。



農学部環境学生委員会の活動を紹介する様子

2回目の基調講演は、千葉大学大学院教授の倉坂秀史氏から「活動を続けていくためにどんな工夫をするべきか」という講演でした。まず、千葉大学の学生委員会の道のりが紹介され、活動を続けるためには、イベントの定例化などによる負担の低減化や、学生たちがやりがいを感じ、各々の能力が向上するなどのメリットを大きくするといったことの大切さを学びました。



分科会での様子

分科会は、A:「モチベーションの維持方法」、B:「企画イベントを協働で成功させる」、C:「交流人口の増やし方」、D:「上手なPR方法」、E:「情報共有の仕方」の5つのテーマについてグループ分けし、グループごとに議論し、発表しました。私はAグループに参加し、そこで出た意見は、活動にそれ自体の成果だけでなく、楽しみや達成感、あるいは粗品のような、何らかの副目的を持たせるということでした。これにより、組織内外の人間のモチベーションの維持、向上が可能であり、情報を受け取ってもらいやすくなり、定

例会などで組織構成員が集まる回数が増えることで、情報共有がしやすくなるといったメリットが生まれるという方法でした。

今回の大会では、基調講演等から、自分たちがこれまで行ってきた活動について、その目的や対象をもう一度よく考えてみる必要があると感じました。また、他団体との交流により、様々な視点から環境活動を見直すことができ、これらを今後の活動でも生かしていきたいと思いました。

(環境学生委員 志津野 匡人)



農学部環境ニュースに関するご意見・ご質問・投稿記事などがございましたら

EMS事務局：agri-eco@shinshu-u.ac.jpへご連絡ください